

あさましきもの

太宰治

青空文庫

賭^{のり}弓^{ゆみ}に、わななく／＼久しうありて、はづしたる矢の、もて離れてことかたへ行きたる。

こんな話を聞いた。

たばこ屋の娘で、小さく、愛くるしいのがいた。男は、この娘のために、飲酒をやめようと決心した。娘は、男のその決意を聞き、「うれしい。」と^{つぶや}呟いて、うつむいた。うれしそうであつた。「僕の意志の強さを信じて呉れるね？」男の声も真剣であつた。娘はだまつて、こつくり首^{うなず}肯いた。信じた様子であつた。

男の意志は強くなかつた。その翌々日、すでに飲酒を爲した。日暮れて、男は蹠^{そうろう}蹠、たばこ屋の店さきに立つた。

「すみません」と小声で言つて、ぴよこんと頭をさげた。真実わるい、と思つていた。娘は、笑つていた。

「こんどこそ、飲まないからね」

「なにさ」娘は、無心に笑つていた。

「かんにんして、ね」

「だめよ、お酒飲みの真似なんかして」

男の酔いは一時にさめた。「ありがとう。もう飲まない」

「たんと、たんと、からかいなさい」

「おや、僕は、僕は、ほんとうに飲んでいるのだよ」

あらためて娘の瞳^{ひとみ}を凝視した。

「だって」娘は、濁りなき笑顔で応じた。「誓ったのだもの。飲むわけないわ。ここではお芝居およしなさいね」

てんから疑って呉^くれなかった。

男は、キネマ俳優であった。岡田時彦さんである。先年なくなったが、じみな人であった。あんな、せつなかつたこと、ございませんでした、としんみり述懐して、行儀よく紅茶を一口すすった。

また、こんな話も聞いた。

どんなに永いこと散歩しても、それでも物たりなかったという。ひとけなき夜の道。女

は、息もたえだえの思いで、幾度となく胴をくねらせた。けれども、大学生は、レインコオトのポケットに両手をつつこんだまま、さっさと歩いた。女は、その大学生の怒った肩に、おのれの丸いやわらかな肩をこすりつけるようにしながら男の後を追った。

大学生は、頭がよかった。女の発情を察知していた。歩きながら囁いた。^{ささや}

「ね、この道をまっすぐに歩いていって、三つ目のポストのところでキスしよう」

女は、からだを固くした。

一つ。女は、死にそうになった。

二つ。息ができなくなった。

三つ。大学生は、やはりどんどん歩いて行つた。女は、そのあとを追つて、死ぬよりほかはないわ、と呟いて、わが身が雑^{ぞうきん}巾のように思われたそうである。

女は、私の友人の画家が使っていたモデル女である。花の衣服をすつと脱いだら、おまもり袋が首にぶらんとさがつていたつけ、とその友人の画家が苦笑していた。

また、こんな話も聞いた。

その男は、^{はなは}甚だ身だしなみがよかつた。鼻をかむのにさえ、両手の小指をつんとそらし

て行つた。洗練されている、と人もおのれも許していた。その男が、或る微妙な罪名のもとに、牢へいれられた。牢へはいつても、身だしなみがよかった。男は、左肺を少し悪くしていた。

検事は、男を、病氣も重いことだし、不起訴にしてやってもいいと思つていたらしい。男は、それを見抜いていた。一日、男を呼び出して、訊問した。検事は、机の上の医師の診断書に眼を落しながら、

「君は、肺がわるいのだね？」

男は、突然、咳にむせかえつた。こんこんこん、と三つはげしく咳をしたが、これは、ほんとうの咳であつた。けれども、それから更に、こん、こん、と二つ弱い咳をしたが、それは、あきらかに嘘の咳であつた。身だしなみのよい男は、その咳をしすましてから、なよなよと首をあげた。

「ほんとうかね」能面に似た秀麗な検事の顔は、薄笑いしていた。

男は、五年の懲役を求刑されたよりも、みじめな思いをした。男の罪名は、結婚詐欺であつた。不起訴ということになつて、やがて出牢できたけれども、男は、そのときの検事の笑いを思うと、五年のちの今日でさえ、いても立つても居られません、と、やは

り典雅に、なげいて見せた。男の名は、いまになつては、少し有名になつてしまつて、ここには、わざと明記しない。

弱く、あさましき人の世の姿を、冷く三つ列記したが、さて、そういう乃公だいこう自身は、どんなものであるか。これは、かの新人競作、幻燈のまちの、なでしこ、はまゆう、椿などの、ちよいと、ちよいとの手招きと変らぬ早春コント集の一篇たるべき運命の不文、知りつつも濁酒三合を得たくて、ペン百貫の杖よりも重き思い、しのびつつ、ようやく六枚、あきらかにこれ、破廉恥はれんちの市井しせい売文ともがらの徒、あさましとも、はずかしとも、ひとりでは大家のような気で居れど、誰も大家と見ぬぞ悲しき。一笑。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1988（昭和63）年9月27日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房

1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6月

入力：柴田卓治

校正：小林繁雄

1999年8月20日公開

2004年3月4日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あさましきもの

太宰治

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>